



表紙イラスト

豊岡市生まれ、プロの絵本作家を目指す 22 歳。

文と絵の両方を手がけた絵本作りにこだわり、制作の勉強せいさくを続けています。

作家活動が軌道きどうに乗ったら、生きものと人が共生する、落ち着いた環境かんきょうのふるさと豊岡で、じっくり作品を作り続けたいという夢をもってがんばっています。



おかもと りさこ
岡本 理紗子 さん



もくじ

あいさつ	1
ジオパーク、コウノトリ、産業・文化の全体のつながり	2
豊岡盆地が育む恵み	3

第1編 ジオパーク

第1章 世界とつながるジオパーク	
1. 地球活動遺産	6
2. ジオパークって何だろう？	7
3. 山陰海岸ジオパークの特徴	8
(1) 山陰海岸ジオパークのあらまし	8
(2) ジオパークと私たちの暮らしとジオツーリズム	8
(3) 世界に誇る山陰海岸ジオパーク	9
(4) ユネスコ世界ジオパークネットワーク	11

第2章 ジオパークの見どころと暮らしとのつながり

1. 豊岡	13
玄武洞	13
豊岡盆地・歴史と文化	14
コウノトリ	15
2. 城崎と港地区	16
リアス海岸・縄文時代の海面・来日岳	16
城崎温泉	17
北但大震災・津居山港	18
銅鐸	19
3. 竹野	20
猫崎半島・天然記念物	20
足跡化石	21
北前船	22
自然保護	23
4. 日高	24
神鍋山・溶岩流	24
日高で発見された化石・クロボク	25
国分寺・阿瀬溪谷	26
5. 出石	28
地質・出石焼・天日槍伝説	28
城下町	29
6. 但東	30
子午線・オオサンショウウオ・京街道	30
ジオパークのQ & A (資料)	31

第3章 ガイドさんの紹介	35
--------------	----

第2編 コウノトリ

第1章 コウノトリを知る

1. コウノトリの基本	38
(1) からだの特徴は？	38
(2) どうやって話すの？	38
(3) 何を食べるの？	38
(4) どうやって食べるの？	39
(5) 巣づくりや子育ては？	40
(6) コウノトリのくらしを知ろう！	41
体験 その1 コウノトリに会いに行こう！	42
体験 その2 生きもの調査へ行こう！	44
2. コウノトリと豊岡が歩んだ野生復帰までの歴史	45
(1) 日本中でくらしていたコウノトリ	45
(2) どうしてコウノトリは絶滅してしまったの？	47
(3) 世界初！コウノトリを復活させた豊岡	51
3. コウノトリの現状	55
(1) 世界にたったの3000羽	55
(2) 人工巣塔が26基	55
(3) コウノトリの目撃飛来地図	56

第2章 世界基準で進むコウノトリ野生復帰

1. みんなで進める野生復帰 ～合言葉は「We（私たち）」～	57
世界基準で取り組んでいるコウノトリ再導入	59
2. 世界最先端のコウノトリ研究が進んでいる	61
兵庫県立コウノトリの郷公園と兵庫県立大学大学院	61
3. 世界が注目する「コウノトリも住めるまち」	63
コウノトリ育むお米の取組	63
(1) 世界に羽ばたくコウノトリ育むお米	63
(2) どんな農法？	65
ラムサール条約の取組	69
(1) 豊岡のコウノトリがくらす湿地がラムサール条約湿地に！	69
(2) ラムサール条約とは？	70
(3) 湿地ってどんなところ？	70
(4) 円山川下流域・周辺水田エリアの魅力	71

第3章 共感の広がり

1. コウノトリ野生復帰に参加したい	75
企業やボランティアの活動	75
体験 その3 みんなは湿地を守れるか！？	77
2. コウノトリ野生復帰を支援したい	79
豊岡市コウノトリ基金への寄付	79

第4章 全国へ、そして世界へ

1. コウノトリの飛来が取組を広げている	81
2. 豊岡に続け！コウノトリ野生復帰が広がる	87
(1) 千葉県野田市と福井県越前市でコウノトリを放鳥	87
(2) 韓国でコウノトリを放鳥	88
3. 注目を集める「コウノトリも住めるまち」	89

第5章 未来へ… (メッセージ)	
コウノトリがおしえてくれた	91
資料 野外個体一覧表	93
コウノトリ年表	95

第3編 産業・文化

第1章 世界とつながる豊岡のものづくり	
1. 技術は最高、世界で輝くものづくり	104
(1) 品質は世界最高 オートバイのホイール	104
(2) 高級ブランドからも選ばれるハンガー	104
(3) 見えないけれどなくてはならないバネ	105
(4) さまざまな分野のものづくり	106
2. 環境を良くすることにつながる事業活動	107
3. 豊岡の気候風土から生まれたものづくり	110
(1) 杞柳産業	110
(2) 鞆産業	112
4. 豊岡の暮らしを支えてきた伝統的なものづくり	117
(1) 出石焼	117
(2) 城崎麦わら細工	118
(3) 但馬ちりめん	120
第2章 世界に誇れる魅力的なまち	
1. 世界中から観光客が訪れる城崎温泉街	123
2. 歴史的なまちなみが残る出石城下町	125
3. 四季を通じて自然体験やスポーツを楽しめる神鍋高原	127
4. 山・川・里・海が密接に結びつくまち竹野	129
5. モンゴルと交流を続けるまち但東	131
第3章 新しい命が宿され、まちの魅力となったもの	
1. 近畿最古の芝居小屋の復活～永楽館～	133
★世界中からアーティストが集まる 城崎国際アートセンター	135
2. 北但大震災からの復興建築群	137
(1) もとは市役所「豊岡稽古堂」	138
(2) もとは銀行「豊岡 1925」	138
第4章 地域の資源を守って活かすひとたち	
1. 資源を活かして山を守る	139
(1) 山を守って暮らしを守る森林組合	140
(2) 炭を安全に短時間で製造する会社	140
2. 暮らしを豊かにする文化を守る	141
3. 食文化を守って活かす	142
★ドクターヘリ・ドクターカーによる救急医療体制は日本一	144

私の「ふるさと豊岡」は小さな世界都市

地球活動遺産「山陰海岸ジオパーク」
豊岡の空を舞う特別天然記念物「コウノトリ」
豊岡鞆をはじめとした、世界が認める「豊岡の産業・文化」
世界に自慢できる多くの魅力を持ったまち、
世界とつながることができるまち、
それが**豊岡市**です。

豊岡には、素敵な「ひと」、豊岡にしかない「もの」、世界に誇れる「こと」がたくさんあります。

このガイドブックには、豊岡の魅力がいっぱいつまっています。あなたの疑問や驚きを引き出し、行ってみたい、見てみたい、やってみたい気持ちを高めてくれるでしょう。

あなたの体の中には、豊岡の空気が流れています。

あなたの記憶の中には、豊岡の風景が日々刻まれています。

家族と過ごす時も、友達と遊ぶ時も、「ふるさと豊岡」は、いつもあなたかくあなたを包み込んでくれています。

何年かたった時、大人になった時、年をとった時、あなたの心の中にある豊岡は、何を語りかけてくれるのでしょうか。

「ふるさと豊岡」は、いつもあなたとつながっています。

2017年3月 豊岡市教育委員会・豊岡市

ジオパーク、コウノトリ、^{さんぎょう}産業・文化の 全体のつながり

これからみなさんが学ぶジオパーク、コウノトリ、産業・文化は、
様々な側面^{そくめん}でつながっています。そのことを意識^{いしき}しながら学ぶことで、
豊岡で繰^くり広げられるいろいろなストーリーが見えてくるでしょう。

ガイドブックの所々には、他の分野への関^{かん}連^{れん}がわかるように玄さんと
コーちゃんとオーちゃんが案内^{あんない}しています。



コウノトリの
「コーちゃん」



玄武岩の
「玄さん」



オオサンショウウオの
「オーちゃん」

コウノトリが舞うふるさと豊岡は、コウノトリ野生復^{ふっ}帰^き
という世界に誇^{ほこ}れる取組を行ってきました。
豊岡だからできること、豊岡にしかない魅力^{みりょく}を
「飛^とんでるローカル豊岡」という言葉で表しています。

飛んでるローカル豊岡
Think Local, That's Global.

豊岡盆地が育む恵み

豊岡のまちは沼だった？ 縄文時代

6000年くらい前、海面が今よりも4～5m高い時代がありました。そのころ豊岡は、大きな入り江でした。

P.14・16



山には、削られやすい所と削られにくい所があり、豊岡のまちはペットボトルのような形となっていました。ペットボトルの口にあたる部分には玄武洞があります。やがて海面が下がり、水がひいていきました。



そして…

P.28

豊岡盆地ができる過程で、いくつかの伝説が残されています。

土木の神様～出石神社～にまつわる伝説

昔、朝鮮半島からアメノヒボコという人がやってきました。豊岡のまちは入り江で平地が少なかったためお米をつくるのが難しかったのです。水の流れをさえぎっているのは大きな岩だと考えたアメノヒボコは、たくさんの人を集めて大きな岩を切りひらきました。すると水は海へどんどん流れ、平地ができ、お米を作ることができるようになりました。アメノヒボコは土木の神様として出石神社にまつられています。

P.143

お菓子の神様～中嶋神社～

お菓子にまつわる伝説もあるよ。『橘』って知ってるかな？

げんざい 現在

玄武洞付近で流れをさえぎられたため、土砂が上流部を埋め、「豊岡盆地」がつけられました。平地ができたことで、人々は水田をつくることができるようになりました。

P.63
~ 68



P.110
~ 116

第1編
ジオパーク

第2編
コウノトリ

資料

第3編
産業・文化

今から6000年くらい前の縄文時代、豊岡は大きな入り江でした。その後、海面が下がりはじめ、入り江からだんだんと水がひいていきました。山は、雨や風などで削られ土砂となって流れます。豊岡では、上流の削られやすい岩石でできた山から大量の土砂が流れました。ところが、下流にある玄武洞付近は削られにくい岩石でできているため、削られた土砂の流れをさえぎってしまいました。こうして土砂で埋められてできたのが「豊岡盆地」です。浅い湿地ができ、人々が水田をつくったおかげで、コウノトリをはじめ、たくさんの生きものがくらせるようになりました。コリヤナギは湿地を好む植物の一つで、柳行李の原料となりました。柳行李は鞆へと発展し、今では豊岡の鞆産業は日本一となりました。コウノトリは、一度は国内で絶滅してしまいましたが、たくさんの人が力を合わせたおかげで野生復帰しました。コウノトリも住みやすい環境づくりの一環として作られた「コウノトリ育むお米」は、農薬や化学肥料に頼らない安全・安心なお米として国内外で販売されています。

このように、豊岡のなりたちと生きもの、産業・文化の発展には様々なつながりがあります。

